

明治27年(1894年)創業、ゆかた製造卸「三勝(さんかつ)」
歌川国芳作「荷宝蔵(にたからぐら)壁のむだ書き」ほか、2022年夏のゆかた新作を発表!



三勝ゆかた博物館には、人気の「江戸元禄」シリーズやアーカイブ柄を新たな生地で染めたコレクション、定番の長板中形(註1)など、およそ300種類の反物がそろいました!

三勝株式会社(所在地:東京都中央区、代表取締役社長:4代目天野半七/天野美香子)が運営する三勝ゆかた博物館(所在地:東京都中央区、三勝株式会社内)は、このたび2022年の新作ゆかたを発表いたしました。

今回の目玉となる商材は、同社が展開する「江戸元禄」シリーズの一つとなる、「荷宝蔵(にたからぐら)壁のむだ書き」ゆかたです。江戸時代末期の浮世絵師・歌川国芳(うたがわくによし)のむだ書き(落書き)をモチーフとしたもので、大胆なデザインと生地の風合いが特徴です。ほかにも同社のアーカイブ柄を選び、新たな生地で染めたものや、定番の長板中形など、およそ300種類のゆかた反物がそろいました。

注1:長板中形(ながいたちゅうがた)

江戸時代に発展した、型紙を使って藍で染める染色技法。伊勢型紙(柿渋の塗った和紙を彫刻刀で彫った型紙。三重県鈴鹿市で1,000年以上の歴史を持つ伝統工芸品)を使用すること、両面糊置きをすること、藍を使用することを条件とし、白がくっきりと染め抜かれる点の特徴

2枚の伊勢型紙を使い、国芳が描いた表情や細かい線を表現!
3種類の異なる生地で、個性溢れる着こなしが楽しめる「荷宝蔵壁のむだ書き」



柄番: 2313
生地: 綿紬刷毛目
刷毛書きをしたような縦縞の織りが特徴の綿紬

■「粋」のある伝統的型染め「注染」

三勝のゆかたをはじめ、明治時代から多くのゆかたや手ぬぐいは「注染(ちゅうせん)」で染められています。注染とは、その名の通り、染料を注いで染める伝統的な型染めの一種です。重ねた生地の上に伊勢型紙を置き、特殊な糊で防染します。その上から染料を注ぎ、模様部分を染め上げます。一度に何枚もの生地を染められるほか、生地の表裏なくきれいに染まるのが特徴です。職人の手作業による美しい染めには、粋な風情が生まれます。

三勝がこのたび新作として発表した「荷宝蔵壁のむだ書き」は、2枚の異なる伊勢型紙を用い、この注染を2回繰り返す「細川染め」という手のかかる技法で染め上げました。



柄番: 2311
生地: 綿紬ネズ
黒糸の節が特徴の赤坂紬という綿紬

■風合いの異なる3種類の生地が揃うラインナップ

「荷宝蔵壁のむだ書き」ゆかたは、刷毛書きをしたような縦縞の織りが特徴の「綿紬(つむぎ)刷毛目」、黒糸の節が特徴の赤坂紬を用いた「綿紬ネズ」、火消し半纏で使われる刺し子生地の「刺し子」、生地や風合いの異なる3種類のバリエーションを揃えました。個性的な柄も相まって、新しいゆかたの魅力を楽しめる自信作です。



柄番: 2312
生地: 刺し子
火消し半纏で使われる刺し子生地

■歌川国芳「荷宝蔵壁のむだ書き」

天保の改革で奢侈禁止令(贅沢禁止令)が初令され、役者絵や美人画も取締り対象になり、国芳らしい反骨精神で落書きを装い、描いたものと伝えられます。

四代目尾上梅幸の当たり役・花園や、五代目澤村宗十郎の清七、心中場面の相合い傘、尻尾が二股になっている猫の妖怪・猫などをデザインしました。なお「大でき」とは、「とてもよい」「お気に入り」「上出来」といった意味。令和4年がいよいよ一年になるよう、デザインに願いをこめました。

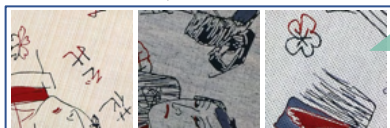


着姿イメージ

歌川国芳「荷宝蔵壁のむだ書き」

■素材: 綿100% ■反物巾: 約40cm×長さ: 約13m(乱規格)

■反物価格: 各77,000円(税込)



生地の表情(左から):
2313「綿紬刷毛目」、
2311「綿紬ネズ」、
2312「刺し子」



2枚の伊勢型紙を重ねた状態

2枚目の型を持ち上げた様子。型ごとに染める部分が異なる

▶▶▶2ページ目に続きます

三勝ゆかた博物館
三勝株式会社内

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-4-7
TEL: 03-3661-8859 (11:00-16:00 土・日・祝日除く)
URL: <http://www.sankatsu-zome.com/>

▶▶▶ 取材をお受けいたします!
▶▶▶ 報道関係者からのお問い合わせ先:

三勝株式会社
代表取締役社長
4代目天野半七/天野美香子
E-mail: mikako@sankatsu-zome.com



三勝ゆかた博物館の所蔵するアーカイブ柄から「蜻蛉（とんぼ）」と「薊（あざみ）」を復刻！
新たな生地と色合いによって、今年らしい新鮮なゆかたを提案します

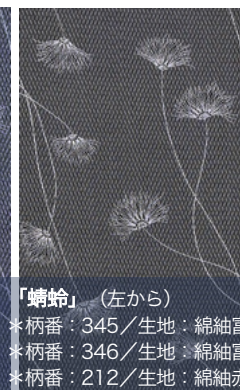
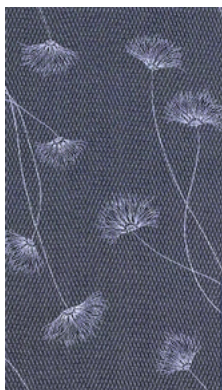
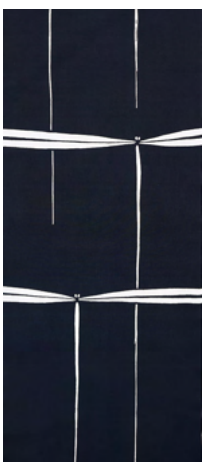
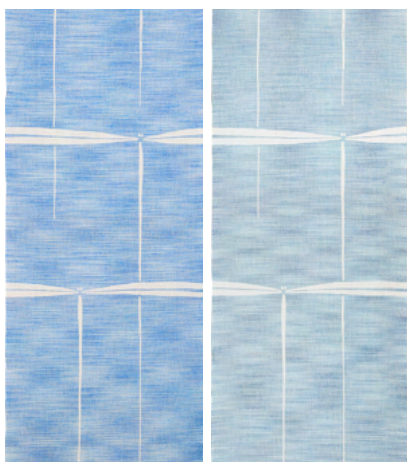


2022年の新作ゆかたとして、三勝ゆかた博物館の所蔵するアーカイブ柄から「蜻蛉（とんぼ）」柄と「薊（あざみ）」柄を復刻しました。

とんぼは前にしか進まず、退かないことから「勝ち虫」と呼ばれ、縁起のよい柄として、特に戦国武将に好まれてきました。「蜻蛉」は直線的で大胆なとんぼ柄を、注染で染めた糸を使い、変化のある美しい織りが特徴の「富士やま木綿」と赤坂紬、織りの異なる綿紬で復刻。前者は涼しげな印象を生み、後者は柄がキリッと映える粋な風情を漂わせます。

ゆかたで人気のあざみ柄の中でも、「薊」は控えめで品の漂う繊細な図柄を、刷毛目の綿紬としじら織で復刻。大人らしい、洗練された着こなしが楽しめます。

アーカイブ柄「蜻蛉」と「薊」のラインナップ



「薊」（左から）
*柄番：350/生地：しじら織
■素材：綿78%・麻22%
*柄番：356/生地：綿紬刷毛目
■素材：綿100%
■反物巾：約38cm×長さ：約13m（乱規格）
■反物価格：各44,000円（税込）

「蜻蛉」（左から）
*柄番：345/生地：綿紬富士やま木綿（濃）
*柄番：346/生地：綿紬富士やま木綿（薄）
*柄番：212/生地：綿紬赤坂紬（黒）
※ほかにも【柄番：349/綿紬赤坂紬（紺）】あり
■素材：綿100% ■反物巾：約40cm×長さ：約13m（乱規格）
■反物価格：綿紬富士やま木綿/各77,000円（税込）・綿紬赤坂紬/各44,000円（税込）

三勝でしか実現できない柄と色合い！「江戸元禄」シリーズも充実しています

三勝のゆかたを代表する「江戸元禄」シリーズは、浮世絵に登場する江戸の意匠を、現代のセンスにあったデザインで図柄化。注染では不可能とされていた、色を立てせない究極の淡色出しの技術によって、上質な素材に染め上げました。今年の干支でもある虎のモチーフであり、葛飾北斎の名作を用いた「雪中虎図（せっちゅうとらず）」や、歌川国芳らしさが表現され、猫が寄り集まってドクロをかたちづくる「国芳もやう正札附現金男 野晒悟助（くによしもようしょうふだつきげんきんおとこ のざらしごすけ）」など、人気の定番柄を刺し子生地や綿紬刷毛目など、複数の異なる生地に染め上げました。性別を問わず、傾（かぶ）いたお洒落を楽しめるゆかたを提案します。



「江戸元禄」定番柄の一部（左から）
*葛飾北斎「雪中虎図」
■柄番：355 ■生地：綿紬刷毛目
*歌川国芳「小子部柄軽豊浦里捕雷（こしべすがるとゆらのさとらいをとらう）」
■柄番：342 ■生地：綿紬ネズ
*歌川国芳「国芳もやう正札附現金男 野晒悟助」
■柄番：348 ■生地：刺し子
江戸元禄「羽織」（上から）
*歌川国芳「国芳もやう正札附現金男 野晒悟助」
■柄番：348 ■生地：刺し子
*歌川国芳「荷宝蔵壁のむだ書き」
■柄番：2312 ■生地：刺し子
※いずれの柄も生地違いあり
■素材：綿100% ■反物巾：約40cm×長さ：約13m（乱規格） ■反物価格：各77,000円（税込）

▶▶▶3ページ目に続きます

三勝ゆかた博物館
三勝株式会社内

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-4-7
TEL: 03-3661-8859 (11:00-16:00 土・日・祝日除く)
URL: <http://www.sankatsu-zome.com/>

▶▶▶ 取材をお受けいたします！
▶▶▶ 報道関係者からのお問い合わせ先：

三勝株式会社
代表取締役社長
4代目天野半七/天野美香子
E-mail: mikako@sankatsu-zome.com

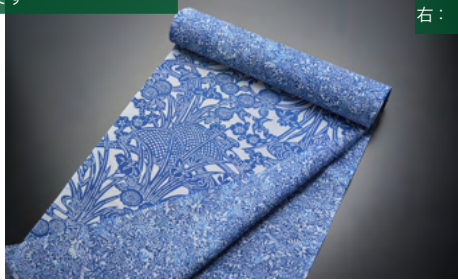
三勝を語る上で欠かせない人間国宝の染め職人・清水幸太郎と、 その三男で三勝ゆかた博物館の前館長・清水敬三郎



清水敬三郎作の反物。
4枚の伊勢型紙を使い、4回の染めを経て生み出した、ゆかたの概念を超える作品です

三勝本社のある日本橋界隈は、ゆかたの製造や卸販売など、繊維問屋街として発展してきました。なかでも三勝は、ものづくりに妥協を許さず、すべて手作業による昔ながらの染色技法にこだわり続けています。頑なまでのこだわりを牽引してきたのが、三勝専属の染職人だった故・清水幸太郎です。長板中形における卓越した技術から、幸太郎は昭和30年（1955年）に国指定の重要無形文化財に指定されました。

その技術を受け継ぎ、ゆかたの新たな技法に挑戦してきたのが、幸太郎の三男で、三勝ゆかた博物館の前館長・清水敬三郎です。敬三郎は幸太郎の作品をはじめ、戦禍から逃れた貴重な資料などを大切に整理、保管してきました。さらに複数の伊勢型紙を使い、版画のように美しい作品を数多く手がけ、三勝はもちろん、ゆかたの新たな魅力と文化を生み出すことに精力を注ぎました。惜しまれつつ2021年にこの世を去りましたが、三勝は清水親子の残した遺産を受け継ぎ、三勝らしいものづくりを踏襲しています。



左：裏表それぞれ染め上げる長板中形は、表と裏で異なる柄を染めることが可能
中：人気の裏変わりほか、長板中型の反物の一部
右：「清水敬三郎謹製」の文字が入った、新しい三勝の証紙



ゆかたの新たな文化を発信する拠点「三勝ゆかた博物館」



三勝が運営する「三勝ゆかた博物館」は、産地の職人とのものづくりを伝える場所として、2021年3月、装いも新たに三勝株式会社本社1階にオープンしました。

館内には1万枚超の貴重な伊勢型紙を所蔵展示するほか、人間国宝の故・清水幸太郎の精巧無比な作品をはじめ、300点超のゆかた・綿きもの・シルクウールの反物、染色の道具、大正時代からの雑誌やポスターなど、貴重な資料を展示しています。

また、商談やイベント、ワークショップをはじめ、ビジネスとしてきものに携わる方や、一般のきもの好きの方など、さまざまな交流を通じて、新たなゆかた・きもの文化を発信する拠点を目指しています。

三勝ゆかた博物館では、新作ゆかたはもちろん、定番ゆかたや長板中形、綿きもの、シルクウールきものなど、およそ300点の反物を展示・販売しています



三勝ゆかた博物館の新たなサービス 「山紫水明（さんしすいめい）」

綿や麻の生地を1反単位で、10色のカラーバリエーションの中からお好みの色に染められるサービスです。
*5種類の中から生地を「選ぶ」
*10色の中から色を「選ぶ」
*きものや羽織から仕立てを「選ぶ」
お好みの1枚を気軽にオーダー可能です

三勝ゆかた博物館

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-4-7

TEL: 03-3661-3860 (11:00-16:00 土・日・祝日除く)

※事前予約が必要です。詳細やご予約は、メールやInstagramのDMで対応しています

E-mail: contact@sankatsu-zome.com

Instagram: https://www.instagram.com/sankatsu_yukata/

勝（すぐ）れた生地に、卓越な勝（すぐ）れた意匠を、他に勝（まさ）る技法で染め上げる

3つの「勝」を誠実に貫き、自らを厳しく律し、高品質の製品をお届けするという志を社名とする三勝株式会社は、明治27年（1894年）創業のゆかたメーカー・染め元です。創業者の天野半七は、浄瑠璃の「艶容女舞衣（はですがたおんなまいぎぬ）」の登場人物「三勝」と「半七」にあやかって屋号を名付けました。人間国宝・清水幸太郎直伝の技術を活かし、美しい色合いや大胆な柄、繊細なものづくりが特徴です。注染や江戸元禄、長板中形など、江戸の風景を現代に忍ばせるゆかたや綿きもの、シルクウールきものを中心に、新たな歴史と文化の創生を目指しています。

三勝ゆかた博物館は、三勝の製品を通して、ゆかたやきもの新たな文化を発信していきます。



三勝ゆかた博物館 三勝株式会社内

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-4-7

TEL: 03-3661-8859 (11:00-16:00 土・日・祝日除く)

URL: <http://www.sankatsu-zome.com/>

- ▶▶▶ 取材をお受けいたします！
- ▶▶▶ 報道関係者からのお問い合わせ先：

三勝株式会社

代表取締役社長

4代目天野半七／天野美香子

Mobile: 080-3253-0456・E-mail: mikako@sankatsu-zome.com